

# 2018年第43回 全国公募写真展

# 視点



田沼洋一「みんな下向き」(2017奨励賞)



中西 建太郎「原発海岸」(2017奨励賞)



立岡秀之「とある少女の日常」(2017視点賞)

## 作品募集

### テーマ、内容は自由

単写真または最大8枚までの組写真

写真サイズ A4または六切のプリント

応募資格にいったいの制限はありません

ヤング部門あります

送付受付 2月10日(土)～3月4日(日)

持参受付 2月28日(水)～3月4日(日)

展示: 東京都美術館(上野公園内)

会期: 6月6日(水)～6月13日(水)

巡回展: 高知、浜松、名古屋、仙台、三重、大阪、鹿児島など(予定)

- |       |     |                           |
|-------|-----|---------------------------|
| 視点賞   | 1名  | 土門拳揮毫「視点」額<br>(賞状と賞金30万円) |
| 奨励賞   | 3名  | (賞状と賞金10万円)               |
| 優秀賞   | 7名  | (賞状と賞金3万円)                |
| 特選    | 10名 | (賞状と賞金1万円)                |
| ヤング賞  | 1名  | (賞状と賞金5万円)                |
| 準ヤング賞 | 3名  | (賞状と賞金1万円)                |

問い合わせ先 (13:00～18:00)

主催 日本リアリズム写真集団(JRP) / 2018「視点」委員会

〒160-0004 東京都新宿区四谷3-12沢登ビル6F

TEL:03-3355-1461 FAX:03-3355-1462 http://www.jrp.gr.jp Email: jrp@jrp.gr.jp



久保村 厚「隣の田圃・2016夏から秋」(2017優秀賞)



犬亦聖月「失った情景」(2017ヤング賞)

# リアルな眼差し



井上寛裕「およっ?」(2017入選)



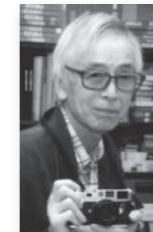
赤松 ともい「何処へ」(2017特選)



### 大石芳野

東京都出身。日本大学芸術学部写真学科卒業。戦争や内乱、急速な社会の変容によって傷つけられ苦悩しながらも逞しく生きる人びとの姿をカメラとペンで追っている。主な受賞に土門拳賞、エイボン女性大賞、JCJ賞。主な著書に『カンボジア苦界転生』『HIROSHIMA 半世紀の肖像』『コソボ 破壊の果てに』『魂との出会い』(鶴見和子と共著)『福島 FUKUSHIMA 土と生きる』『戦争は終わっても終わらない』『沖縄 若夏の記憶』子ども 戦世のなかで』ほか多数。

いまの社会で最も求められているのは多様性のある考え方です。リアリズム写真においても同様でしょう。自分の独自の視点を深めながら周囲の動き、光や影を見落とさないように神経を尖らせることで、今でなければ撮れないもの、表現できないものが見つかるに違いありません。それをじっくりとしかし瞬時に掴み取って写真化することを期待しています。きっと審査員たちを唸らせる作品が集まることでしょう。



### 英伸三

1936年千葉市生まれ。農村問題などを通して日本社会の姿を追いつつ、1992年から中国の改革開放政策による変貌を追っている。伊奈信男賞など受賞。写真集『一所懸命の時代』など多数。JPS 会員、JRP 代表理事、現代写真研究所所長。

第43回を迎える「視点」展。私は第1回から関わってきましたが、時代の変化によって撮影対象への規制が厳しくなり、かつて「視点」展の特徴の一つであった工場などの労働現場や子どもたちの学校生活など、社会構成の主体である産業部門と教育部門の作品がぐんと少なくなりました。“撮りたいもの”から“撮っておくべきもの”へと攻めの発想でこの時代を記録した力作を、どうか多数お寄せください。



### 中村梧郎

フォトジャーナリスト、元・岐阜大学地域科学部教授、二コン第8回伊奈信男賞、2007年ニューヨークでMAGNUM 創立60周年招待「ORANGE」展。著書に『新版・母は枯葉剤を浴びた』、『写真で何ができるか』(共著)、『環境百福』。JPS 会員、JRP 代表理事。

誰でも写真を撮れる時代となりました。子供もスマホでパシャッとやります。きれいに写ります。でもそれはそこに存在するモノの平板な記録にすぎません。良い写真は事態がみごとに表現されているかどうかです。単なる記録を超えて、奥深い表現であればあるほど人の心に響きます。修練を重ねればそんな作品を作り出すことができます。ぜひ、楽しみつつ視点にチャレンジしてみてください。



### 金瀬 胖

1944年千葉市生まれ。主な関心事は産業社会の風景と音楽家。写真集『ZONE』『EXPOSED 東海村感光録』『浦廻』近刊『路上の伝記』ほか。写真展多数。写真の会賞など受賞。JPS 会員、JRP 代表理事。現代写真研究所教務主任。

写真は撮った人の私物ではなくて、時の預かりものだと思う。だから写真はその時代に返すのが筋だと思う。撮って終わり、見て終わりの映像「情報」を写真と言いたくない。わたされた写真を写真とおう。写真は何度も何度も繰り返し見られることで人の記憶に残り、ひろい意味で文化の鍾になっていく。いまその文化の鍾が危うくないか。子供は一日を、まるで生涯そのものように遊び学び生きる。そういう一日、一日を写真とともに生きたいと私は思う。



### 金井紀光

1950年生まれ。広島県出身。写真家助手を経てフリー。写真集『私景広島』、写真展『非電化暮らし』『8・6「核をめぐる光景」』など多数。2008年、2011年視点賞受賞。JRP 理事。現代写真研究所講師。2018「視点」委員長。

約10年ぶりの「視点」委員長です。この10年に、写真の環境が大きく変化しました。ネット上での発表は日常的ですが、メーカーギャラリーの閉鎖など作品をじかに見てもらう機会が減りました。「視点」は全国6～7か所を巡回します。入選し巡回作品に選ばされると、自分の写真を多くの人々に直接見ていただけます。「最近応募していないなあ」「ハードルが高そう」と思っている方、ぜひ応募してみてください。きっと新たな発見があるはずです。

● 2018 ●  
選考委員